

平成29年度自己評価結果公表シート

大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

「未来を生きるための根っこを育てる保育」つまり、のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、生き生きとした生活の中から真の知性を高め、豊かな情操、思いやりの心、創造性や自主性を育て、健全な人間関係の基礎を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもが主体となる生き生きとした保育を支える教師力・保育力の資質向上や環境構成を目指す。

- ・幼児期に大切な教育と保護者理解の研修を行う。
- ・子どもが安全に、そして安心して遊ぶことができるよう、危機管理に努める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況・達成状況
・教師の子ども理解・資質向上を目指し、園内研修の充実に取り組み、各種研修会へも積極的に参加し、自己研鑽と共通理解に努めていく。	カリキュラムを見直し、子どもの興味に即したねらいを設けた。 (A) ねらい達成にむけて、また、よりよい保育に向けて全教員で自身の保育の振り返り、意見交換等の研修を行った。(B) 教育方針の再確認と共通理解も行い、教師力・保育力の資質向上に努めた。(A)
・保護者とのコミュニケーション作りを努め、子どもの育ちや幼稚園の教育方針への理解・連携を構築していく。	広告やHP、SNS媒体を利用して、保護者はもちろん、園に興味をもっている方へ日々の保育の様子や出来事を伝えた。(B) 登降園時には、個々の子どもの成長の様子を話したり、掲示板を通して保育の見える化をしたりすることで保護者とのコミュニケーション作りを積極的に行った。(A) 園に関するアンケートの内容を見直し、実施した。結果をふまえ、より保護者の思いや要望をきくようにした。(B)
・樟蔭学園との連携。	年間を通して大阪樟蔭女子大学児童学部の実習生・ボランティア学生を受け入れた。(B) 樟蔭高校児童教育コースの体験実習に加え、新たな取り組みとして園外保育実習を実施した。(B) 大阪樟蔭女子大学教員による保育を積極的に取り入れ、子どもの体験が深まるよう努めた。(B) 樟蔭学園との連携を通して、たくさんの人とのかかわりをもつ機会を設けた。(B)
・危機管理の充実。	子どもが安全に、そして安心して過ごせるように園内の危険箇所の点検・修理を行った。(B) 保育中に子ども向け防犯教室を実施し、教員も危機管理意識の再確認をしたり、研修に行ったり、計画の見直しをした。(B)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・園内外の研修により、教師一人ひとりの保育に対する意識が高まった。さらに充実させていきたい。
- ・HPの内容が在園児保護者には浸透してきたが、その他多くの人への周知が浸透しなかった。今後は在園児だけでなく、より多くの人に興味を持ってもらえるよう、内容を検討していく。
- ・学園との連携においては、新たな取り組みを行うことができてよかった。引き続き、附属幼稚園の良さをいかし人的環境の充実を計る。
- ・子ども向けの防犯教室を保育中に取り入れることで、教師のみならず、子どもや保護者にも啓発することができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
幼稚園の魅力の周知方法	広告やHP、SNSの内容を検討し、より多くの人に幼稚園に足を運んでもらえるようにする。
学園との連携強化	連携に偏りがみられるため、幅広い連携ができるよう関係作りに努める。
危機管理の対応	芝生や園庭の固定遊具の老朽化にともなう園内環境の改善を計る。

6. 学校関係者による評価・意見・達成状況（平成30年3月20日実施）

- ・自然が多く、子どもがのびのびと遊べる環境がよい。(A)
- ・心身ともに健やかに育つ人的・物的環境が整っている。(A)
- ・日ごろ家庭ではできないことができる。(A)
- ・地域との交流を考えてほしい。(意見)
- ・大学附属であることをいかし、質の高い保育を提供してほしい。(意見)

7. 財務状況

学校法人樟蔭学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。